

第6回町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会 議事概要

日 時	2024 年 12 月 12 日（木）13 時 30 分～14 時 55 分
場 所	町田市庁舎 4 階 記者会見室
出席者	【委 員】 （敬称略） 山口 有次（桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授） 長尾 洋子（和光大学表現学部総合文化学科教授） 藤枝 由美子（玉川大学芸術学部アート・デザイン学科教授） 宗田 隆由（一般財団法人町田市文化・国際交流財団） 高橋 倫正（町田市郷土芸能協会） 佐藤 正志（町田商工会議所） 亀田 文生（一般社団法人町田市観光コンベンション協会） 大山 茂登（木曽中学校校長） 百田 明弘（相原小学校校長） （以上 9 名） 欠席：高野 宗佳（一般社団法人町田市文化協会） 【事務局】 文化振興課 山田、上林、福地、牧野、池内 文化振興スポーツ部 老沼部長 株式会社文化科学研究所（コンサル） 【傍聴人】 なし
議事内容	1 前回の振り返り 2 計画骨子案について 3 その他 ・今後のスケジュールについて ・2025 年度委員就任について
配布資料	資料 0_レジュメ_町田市文化芸術のまちづくり計画庁内検討委員会 資料 1-1_第 5 回庁内検討委員会議事概要 1003 資料 1-2_第 5 回懇談会議事概要 1021 資料 2-1_町田市文化芸術のまちづくり計画骨子案_20241202 修正版 資料 2-2_全国の文化芸術計画・事業との比較

○事務局

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今回は計画の骨子案を修正しましたのでご検討いただきたいと考えております。今年度最後の懇談会となりますので、文言等細部についてもご意見をお願いします。次第に従って進めます。それでは山口委員長に司会進行をお願いいたします。

○山口委員長

ではまず次第 1 について事務局から説明をお願いします。

1 前回の振り返り

（資料 1-1_第 5 回庁内検討委員会議事概要 1003）

（資料 1-2_第 5 回懇談会議事概要 1021）

以上 2 つの資料を事務局より説明

○山口委員長

以上についてご意見ご質問ありますでしょうか。

<ご意見>

なし

○山口委員長

では次に計画骨子案について資料の説明をお願いします。

2 計画骨子案について

(資料 2-1_町田市文化芸術のまちづくり計画骨子案_20241202 修正版)

(資料 2-2_全国の文化芸術計画・事業との比較)

以上 2 つの資料を事務局より説明

○山口委員長

それでは、重要なところですのでぜひご議論ください。

○高橋委員

骨子案の 3 ページ (3) に「デジタル技術の急速な進展等」とありますが、ここには SNS も入りますか。

○事務局

はい、技術もその仕組みも含めて入ります。

○高橋委員

わかりました。SNS は今後も無くなることはないため、入れるべきだと考えます。7 ページ「町田市の強み」(1) で文化芸術に親しめる環境の最初に「茶道、華道、書道、クラシック音楽、オペラ、バレエ等」とあります。「等」にそれ以外のものも全て含まれるものの、これだけ書いてあるとやはり強調されて、町田の文化芸術はこれだけという印象を受けます。郷土芸能も当然この中に入って良いと思います。

同じく (1) ⑤にまちだ〇ごと大作戦が出てきますが、将来もこの施策は継続するのでしょうか。二十祭まちだは続くとしても、こういう形で書くのが良いのでしょうか。

9 ページ「課題」2②の舞台芸術や伝統文化という中に、郷土芸能は入るのでしょうか。そういったものも入るのであれば、確かに「市民の文化芸術活動が続けられてきた土壌がある」と言えると思います。

10 ページ「課題」4 の資源の保存・活用の中で、「獅子舞やお囃子など（中略）継承することが難しくなっている」と断定されています。しかし現状は、毎年 2 月 11 日の郷土芸能まつりでお囃子などを見ると、子どもが入ってきています。郷土芸能の継承が難しくなっているのは確かですが、少し光が見えているので、「難しくなっている」という言い方、ニュアンスは気になります。

14 ページ基本方針 3 施策 2「次世代の育成」で、出てくる人はアーティストだけですが、骨子としてこういう書き方で良いのでしょうか。

基本方針 4「共に創る」で、「共に」は行政と市民・団体なのですか。これを見ると行政は市民に全部任せているように見えます。共に創る中に市も当然関わって、それなりに打ち出していくもの

もあっていいと思います。

○山口委員長

最後の点については、「共に創る」は基本方針のみでなく全てにかかるということです。行政も市民も企業も関わるという位置付けと理解すれば問題ないと思いました。「アーティスト」という表現について、事務局はいかがですか。

○事務局

「アーティスト」という表現については、第4回の懇談会であった、個人、団体も含めて広くアーティストと呼ぶというイメージです。いわゆる芸術家だけではなく、文化芸術活動をする人というイメージで使っています。

○高橋委員

わかっている人はよいが、市民から見てそう感じるかどうかは疑問です。

○山口委員長

事務局は、ご指摘のとおり言葉を加えるか、別のところで補足するなどの配慮をお願いします。

○高橋委員

「共に創る」については、これまでに市が大きく前面に出てきたイベントはあったでしょうか。だからこそ、行政も一緒に創るのであれば、そういう文も入れて良いのではないのでしょうか。個々のイベントはあるが、町田市全体のイベントは無いように思います。町田市の文化芸術が一堂に会するイベントはあっていいと思います。行政が実施し、企業や諸団体が入る発表の場というのはどうだろうと思いました。

○事務局

「目指す姿」にあるように、市が文化芸術をするのではなく、活動しやすい土壌を作っていきたいと思います。町田市がイベントを主催したり、団体をつなげる仕組みをつくったり、〇ごと大作戦のようなやりたい団体に対して規制緩和をしたり、活動しやすい土壌を作る点で一緒に創っていきたいと考えています。15 ページの「計画の推進体制」にもあるように、行政がまとめていきつつ、各団体が役割を持って推進する形にしていきたいと考えています。

○亀田委員

資料2-2はどういうことを意味しているのか、もう一回説明していただきたい。全国の文化芸術事業の比較ということで、うまく行かなかった事例も含めてとの説明でしたが、資料にあるのはうまくいかなかった事例なのですか。

○事務局

育成に力を入れている全国の事例を見る中で、こういった自治体でどのような事業が行われているか、規模感や評価を見ています。失敗事例やその要因も見ましたが、「失敗」の定義が難しく、外部に公表もされにくいので、調査できていません。

○亀田委員

全国の事業をグラフ上にプロットして、この楕円部分に町田市の「Let's stART」が入るという理解で良いですか。

キャッチコピーに平易な言葉を使っており、育成に力を入れつつもより総花的な印象なので、ここに「Let's stART」は馴染むと思います。しかし一方で、アーツカウンシル東京などポイントを絞った計画が載っているので、こういう比較が良いのか、うまく理解できません。

○山口委員長

今回の計画をどこにポジショニングするかという観点で、4つのポイントはカバーしつつ少し右上の方に若干シフトするというふうに理解しています。

○事務局

言い換えると、いろんな自治体がそれぞれにポイントを置いて文化芸術を進めています。我々は縦軸に「心を豊かにするか、外国人目当てにするか」、横軸に「保存か、新しいものを作っていくか」を立てて考えています。グラフにあるのは各市の計画でなく事業、取組であり、それらがどこに視点を置いているかを示しています。町田の各事業がこの楕円形の中のどこかにプロットされてくるように、ここらあたりのバランスを目指しているということです。

○亀田委員

わかりました。

○宗田委員

骨子案には「育む」という言葉が出てきません。「育てる」「育成」よりも「育む」の方が、周りが支えるというイメージや視点があってわかりやすいと思います。11ページの基本方針3「継承する」の文章も、「土壌を育てていく」よりも「土壌を育んでいく」の方が、その後の継承や「愛着を生む」に自然につながります。

10ページの課題3「鑑賞・活動する場の整備・活用」の③の、「町田市民ホールは客席数が少なく、収容人数を超える規模の公演を呼ぶことが難しい」という部分は、当たり前のことですので表現を変えた方がいいと思います。また⑤の町田市都市集客機能整備方針は、書くのであれば、策定年と出典がないと信憑性が低いので入れてほしいと思います。

課題にある練習場所、発表する場所は、スタジオなど民間施設は当然ですが、野津田スタジアムを活用したり、大学連携の場を生かして各大学の施設をもっと活用したりする方が良いと思います。桜美林大学や玉川大学の協力も得られると思いますので、そういったところの活用をもっと広く見た方が良いと思います。

課題5の①「町田では」は市が抜けています。②の「美術系学部が集まっている」は「芸術系や美術系の学部が集まっている」とした方が良いのではないのでしょうか。一番下の行の「多様な担い手」は、「子どもから大人まで多種多様な担い手」として、若手や子どもをもっと巻き込めるような表現に変えてはどうでしょうか。

○佐藤委員

この骨子案は、今日の意見を踏まえて、16ページ仕立てでパブコメに出されるのですか。

○事務局

今回の骨子案は本懇談会の資料として公表されます。その後、次年度に事業が肉付けされて計画の素案となってからパブコメに出ます。

○佐藤委員

それが来年10月ですね。では懇談会資料として、11～14ページはA3版で、基本方針から課題、体系、施策までの流れを一枚で作った方が良いと思います。理事者に説明されるにもその方がわかりやすいと思います。

8ページ「目指す姿」の最後、「そして思い出の時間を過ごした町田が好きになる」の後に、さら

に「なんだかんだ言っても」と、今さらへりくだるように入れなくて良いのではないですか。

また「笑顔に囲まれた思い出がつかれる」は、過去形か進行形かで大きく違います。笑顔に「囲まれて」なのか、「囲まれた」なのか、もう一度練っていただければと思います。

○事務局

「なんだかんだ」については、文化芸術振興が町田市全体に波及するという意味で、まちだ未来づくりビジョンのキャッチフレーズから引用していますが、文脈がわかりにくく、へりくだった感じもあるので工夫します。「笑顔に囲まれた」も同様に、思い出なので過去形にしていますが、こちらでも再考してみます。

○山口委員長

同じく「目指す姿」にある、「そして、文化芸術のスタートを踏み出すことができ」の箇所も、文化芸術はスタートするものなのかどうか気になります。「文化芸術が育ち笑顔咲くまち」をスタートするのか、何をスタートするのかというと、まちづくりをスタートするというニュアンスで良いのでしょうか。全体的に異論があるわけではありませんで、少し工夫していただくと良いと思います。

○藤枝委員

「町田で Let's stART」は、私自身は町田でアートを始めるというところに少し違和感があります。文化芸術はすでに町田にあるもので、新たに始めることを強調する必要はあるのかという気がします。また「なんだかんだ」は、やはりちょっと気になりますので検討していただきたいです。

○山口委員長

ゼロからのスタートではないということをいかに表現するかですね。まちづくりをスタートするのであれば良いのかもしれません。

○長尾委員

皆さま細やかに見てくださって、ご意見はなるほどと思いました。これから何をスタートするかということで、そこまで明確に力を入れてこなかった文化芸術のまちづくりをスタートすることだと思います。8ページの図で、「町田への愛着」と「まちのにぎわい」が吹き出しで出ていますが、今の表現だと四角で囲ったメインテーマとの関係が少し見づらいと思います。派生的にこれらが出てくるというゆるい感じで描かれていますが、文化芸術が育つ、育まれるまちというところから帰結として愛着が増し、賑わいが増進されるという因果関係を、もう少し明確に打ち出していけると良いと思います。

○山口委員長

文章の形になっていないと不明確になるため、どこまで文章の方に書き込むかということでしょうか。

○長尾委員

最終的に文字とイラストなどでビジュアルに表現するのであれば、うまく組み合わせた形で因果関係がわかるようになると良いと思いました。

○事務局

因果関係について、以前は矢印で表現していましたが、何を目指し、何が派生して、という因果関係が明確なものではなく、悩んでいます。文章に書き込む部分はもう少し後の本編の段階で補足できますので、骨子では図でうまく表現していきたいと思います。

○大山委員

骨子案は非常によくまとまっているというのが第一印象で、「なんだかんだ」も町田の特性を強調しながら作られているのだなと思いましたが、何も知らない人の視点でこれだけ見ると確かにわかりませんと思います。これまでの話し合いで出来上がったものを生かしながら、たとえば「Let's stART」もすごく素敵だと私は思いましたが、何をスタートするのかわかった方が良いです。全体的に緩やかに表現されていますが、中でも特にこの部分に力を入れるという部分があればわかりやすくなるのではないのでしょうか。うまく組み合わせて、新たに計画として文化芸術のまちづくりを推進していくという発声としてうたわれると効果的だと思います。

基本方針1「きっかけをつくる」は、課題1「中学生以下の子どもの文化芸術体験について、(中略)多様な機会が重要だと考える市民が多くいる」というところを受けていると思いますが、具体的に町田市のスタンスとして子ども達にこんな体験をさせたい、これに触れさせたいと書いてあると中学校としてはありがたいです。

○長尾委員

12ページの計画体系の図について、先ほどの説明では「基本方針4共に創る」が基本方針1から3をバックアップするとのことでした。矢印が4から1、2、3に向かっていますが、いろんな分野のテーマである共創は、きっかけや場を作り、後継者育成にも回っていくということで、矢印的には反対の流れも想定されているケースがあると思います。こうした要素を踏まえて基本方針の関係性をもう一度考えて、一方向だけでないところをもう少し考慮していただきたいです。

○山口委員長

双方向であり、きっかけをつくるのが場をつくることにもつながる、ということでしょうか。

○長尾委員

そのとおりです。循環なども考えられます。

○山口委員長

箱が変わるのではなく関係性の表現ですね。

○百田委員

全体的には回を重ねるごとにまとまってきていると感じます。前回の育成という視点も、今回の8ページ「目指す姿」も、個人的にはわかりにくいという第一印象ですが、文化芸術というものの自体がわかりにくいことを表している感じはします。上の文章にも、町田市として土壌を育てていくということはよく説明されていますし、町田市は行政としてそういう環境をつくっていくのかなと思います。逆に言えば、そのよくわからない部分がわかるようになるのがゴールであり、そこに辿り着いたらその時が、計画が進んでいる時だということを表している気がしました。

○山口委員長

他はいかがでしょうか。11ページの課題と基本方針をつなぐ線は、今抜けているところがつながっているかもしれないので、再度チェックしてください。さまざまな施策が入っているため、「この線が抜けている」と指摘されないようにしたいと思います。全部が繋がるのかもしれませんが、確認していただくと良いと思います。

○宗田委員

8 ページの「stART」が「ART」を含むイメージになっています。文章の「アート」はやはり美術系を想起するので、文章の方も「stART」「ART」を英字にした方が、美術系だけに限定されないイメージになります。イメージは目に入って印象に残るので良いと思いますが、もう少し工夫をお願いします。

○山口委員長

イメージを残す方針で、前向きに文章を変えるということをお願いします。

○藤枝委員

「Let's stART」を残すのに依存はありませんが、単数系の「ART」には音楽は入らないと英語ネイティブ話者に指摘されたことがあります。音楽なども含むアート一般は「ARTS」です。それを踏まえた上で、ここはキャッチコピーですので良いと思いますが、ネイティブ話者はそう感じるということをお伝えしておきます。

○宗田委員

8 ページの図はカラーで見るとイメージが全然違いますので、なるべくカラーで出すべきです。英語部分は「町田から始めよう」という日本語に変えても良いと思います。

○長尾委員

「なんだ かんた まちだ」は、頭文字の「なかま」を意識したキャッチフレーズですか。

○事務局

そのとおりです。

○長尾委員

8 ページの図の四角囲みの中の「仲間をつくり」も、「なんだ かんた まちだ」を意識されているのですか。

○事務局

そこまでは思い至っておりませんでした。四角囲みの仲間は文化芸術の力で人と繋がる、部活のように一人ではなく皆で楽しんで賑わいを生んでいくということで、「なんだ かんた まちだ」とのつながりは意識していませんでした。

○長尾委員

町田市民としてここを訪れる人たちの間でつながりやご縁が育まれる、文化芸術が絆となってコミュニティが醸成されるというイメージが、ディスカッションを通じて感じられてきましたので、そういう部分も目指す姿として伝わるようなものに仕上がると良いと思います。

○山口委員長

他はいかがでしょうか。皆様大丈夫ですか。では以上を踏まえてブラッシュアップしていただければと思います。次第2は以上として、次第3「その他」を事務局からお願いします。

3 その他

・今後のスケジュールについて

・2025 年度委員就任について

○事務局

1 点目は今後のスケジュールです。この骨子案は市の内部手続きを経た後、確定した内容を 2 月に皆様と共有します。

2 点目に、委員の任期が当初 2 年間の予定でしたが、骨子策定期間の延長に伴い 2025 年度もお願いしたいと考えております。委員就任等の正式な依頼は 2 月頃にご連絡し、文書をお送りしますのでよろしくお願いいたします。

○山口委員長

ご質問、ご意見はありますか。

○宗田委員

16 ページのスケジュールの一番下に「教育委員会の意見を聴く」とありますが、これはいつ頃の予定ですか。その時の意見によって計画が変わることもあるのですか。

○事務局

教育委員会には骨子策定後、仮確定したものを報告案件としてかけて連携していく想定です。

○山口委員長

よろしいでしょうか。では事務局に司会進行を戻します。

○事務局

皆様ご意見をありがとうございました。事務局から事務連絡がございます。

毎回恐縮ですが、ホームページ公開のため 1 月中旬頃に本日の議事録をお送りしますのでご確認をお願いいたします。次回の懇談会日程は、委員の就任確定後に改めてご連絡いたします。現在のところ 5 月頃を想定しています。

○事務局

それでは皆様引き続きどうぞよろしくお願いいたします。以上で第 6 回懇談会を終了します。

以上